

The beauty of wasting

___ 消耗品の価値はどこにあるのだろうか。

消耗品:使用により状態変化を起こし、やがては消耗され、無くなっていく。モノとも呼ばれないうちに、買われ使われ捨てられる。ただ消えていくだけの消耗品に価値を見出したことがあっただろうか。

___ 消耗される美しさ。

私たちは、消耗品とは遠い存在であるインテリアの消耗される姿を想像した。これらは使うたびに少しずつ崩れ、やがて壊れて使えなくなってしまう。消耗という行為の始まりと終わりを美しく描くことで、今まで意識されることのなかった消耗品の価値に、はじめて向き合うことができる。

___ 呼吸する消耗品

時とともに姿を変えていく石の魅力が、消耗品のあり方として理想的なのではないだろうか。木や革のような自然素材は、時とともに色や艶が加わることに美しさを見出す。対照的に、石は削られ失われていくことに美しさを見出す。河原に転がる石は、水の流れによって角や稜がとれ、削られていくことでひとつひとつ魅力的な個性を得る。消耗品に石という素材の価値を結びつけることで、使うたび、まるで生きているかのような表情の変化を見せてくれる。ただ捨てられていくのを待っていた消耗品に新たな価値を与えていく。

___ Reborn

成形方法は砂型鑄造から着想を得ている。パッケージはその消耗品を再び固めるための型の役割も兼ねる。型は外側のフレームによって支えられ、粉碎された鉱石は適当な水分量を与えることで再び硬化する。少しずつ壊れる消耗品から砂を集め型に入れ、押し固める。消耗品が消える時に新しい消耗品が生まれる。